

---

# 勇者様は異世界人!!?

あべる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

勇者様は異世界人！！？

### 【Nコード】

N5927H

### 【作者名】

あべる

### 【あらすじ】

私、七瀬静音は濃い変人（変態？）に囲まれながらもゴク普通の人生を歩む筈だった。・・・筈だったのにいきなり異世界トリップして挙句のはてには勇者として魔王を倒せだと！！こういうのは男の主人公なんじゃ・・・？魔法や超能力なんでもアリのコメディです

ぶるるーぐ

「静音バイバイ。また明日ね〜」

「うい〜明日は土曜日だけどな〜」

姫香と別れて歩き出す。ここから家までなら10分ぐらいだ。

いつもならバカな幼馴染がしつこく「あれ面白そーだから行こうぜ  
!!!」

とか言つて騒音を私の周りでかなりたてるのだから、今日は旅行に行  
つていていない。

「ふわあ〜。あいつがいないと静かでいいわ〜」

大きな欠伸をしながら、帰り道を歩く。

しかし、いつもの騒音に慣れてるせい何か物足りない。寄り道で  
もするかあ。

いやいや待て静音。いつもならあのバカを言い訳にできるが、今日  
奴はいない。

遅れて家に帰ったら超がつくシスコンの兄（私は兄とは認めないぞ）  
にしつこく追求される。それはウザイ。

・・・やっぱ早く帰る。

テクテクと横道にそれかけた足を通学路に戻す。

「はあ〜なんか面白いコト起こらないかなあ〜。異世界にスリップ  
とか・・・流石にコレは無理か・・・」

かなり諦めが混じった声で天に希望をいう。人間だもの。

・・・ヤバイヤバイ。いくら暇だからって某詩人のフレーズを言っ  
ちやっただじゃない。

家早く帰って休まないと病院に（頭の）送られかねない。

グダグダな思考を続けていると急に体が引っ張られるような感覚に  
襲われた。

次の瞬間には 七瀬静音 は この世界 から消滅していた

## 第1話

あゝ痛〜。周りを見渡すと、見慣れた通学路は消えていて森っぽいところに……。

……状況を確認しよう。え〜っと、通学路で歩いてた。うん、コレはオーケー。

森っぽいところにトリップ。……訳わかんねーよ！！

心の中で誰かにツツコミつつ私は自分でも意外なほど落ち着いていた。

よーするにコレは小説とかでよくある異世界トリップだ。

……まあ小説とかだと主人公は大概男でイケメンだったり、特殊能力持つてて主人公補正はいつてるんだけど。ま、いつか。

いつまでも森の中でつつ立てる訳にもいかないので、歩いてみますか〜。

私は森の探索に向けてイキナリ陥った非日常を楽しみながら動きだした。

数分後。前言撤回。

私の目の前には魔物君が。確かに異世界トリップだと魔物はずき物だけ。

……主人公補正が入ってない私にどうしろと？

私は14年間武道をやったこともないし、怪力な訳でも俊足な訳でも無い。

……異世界到着5分で大ピンチ。いやいやいや！！ぶざけてる

余裕ないから!!

だって、あの魔物明らかな雑魚っばいけど、少なくとも平和な国ジャパンで育ってきた私に倒せる訳ないでしょーが!!

ぐるるるる・・・

あゝ唸り声とかあげないで。マジ怖いですよ。

異世界行きたいとか考えてた自分にマジで跳び膝蹴りをお見舞いたい。

があああああ

魔物がこっちに跳びかかってきた。

あゝあ、グッバイ現世。今度はもっとマトモな主人公を見つけろよ。

ドシンっ!!!!

ん?今なんか見知った顔が空から降ってきたような???

「あゝ海斗!!」

「静音!!!!」

こうして私は思わぬトコロで幼馴染と再会を果たしたのだった。

## 第1話（後書き）

初めての小説で誤字脱字があるかも知れません。

## 第2話

たまたま、海斗の着地地点に居た雑魚1は海斗のヒップドロップをお見舞いされて伸びていた。・・・ご愁傷様です。

「とりあえず、ここ何処だ？」

「こつちが訊きたいわ!!」

当たり前な海斗に質問に王道の答えを返す。

二人仲良く異世界トリップですか……。そもそもなんで海斗まで此処に？海斗はいつも「日常こそが幸せなり〜〜〜」とか叫んで寄り道とかはするけど基本変化を嫌うから 異世界行きてーなとかは思わない気がする。

「海斗お前なんで此処にいんの？何したらこつち来ちゃった？」

海斗は頭を抱えて悩んでいる。・・・バカに聞いた私が馬鹿だった。

「あ、今失礼な事考えたる!!」

「さあね〜」

海斗の言葉を流しながら、何をすべきか考えていた。

異世界トリップ 魔物とか居る いつまでも森の中に居ると危険  
とりあえず動こう

「よし!!行くぞ海斗!!」

「は？行くぞって何処に？てか何しに行くんだよ」

「いいから走れ軍曹。街を探すぞ。そんな事では戦場は生き延びれんぞ！」

後ろから訳わかんねーよ とか聞こえた気がするが無視してとりあえず私達は森の中を一直線に走り出した。

5分後。

街着いちゃった……。

いや、嬉しいことなんだけどなんか肩透かしだった。異世界らしく2、3日森のなかで迷うとかもあるかも知れないと覚悟していたのに。

「なんか、あつさり着いたな……」

海斗も同じような気分らしい。街の人の格好も至って私らの格好に近いというか……。

「今私の中で異世界への夢が崩れた気がする……」

「俺も……」

二人して溜息をつきながら街でこの世界の情報収集を始める事にした……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5927h/>

---

勇者様は異世界人!!?

2010年10月14日22時43分発行